



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2023

3月17日号

193
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒963-0201 郡山市大槻町字原ノ町3-1 TEL/FAX 024(954)7595

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

年度末を迎えて



副会長 阿部 郁 明

2011年3月11日に発生した東日本大震災、早いものであれから12年が経過しました。先日、東日本大震災・原子力災害伝承館を訪問する機会がありました。日本観測史上最大規模の最大震度7（福島県は震度6強）の地震、そしてそれによる巨大な津波により福島県内も広域にわたり甚大な被害が生じたことを見学して改めて認識させられました。福島県はこの津波による原発事故に伴う原子力災害により今でも数万人の方が故郷を離れて生活しています。それに加えて原子力災害による風評被害にはいまだに悩まされ続けています。地震・津波については自然災害であります。原子力災害は人災ではないのかと考えさせられます。この忘れてはならない大きな災害を未来に語り継ぐ意味でも伝承館は大切な施設ではないかと感じました。

さて、新型コロナウイルス感染症は第8波のピークを越え、新規患者数も減少傾向となってきた中、国はこの新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類を5月8日に現在の2類（結核・SARSなど）から5類（季節性インフルエンザなど）に引き下げることを決定しました。5類になると何がかわるかと言うと、患者や濃厚接触者の行動制限がなくなります。診察についても一般の医療機関となります。ワクチン接種や入院検査の公費負担については、当面継続する事も議論されているようです。そして屋内でのマスク着用は個人の判断となるようです。分類は変わりますが感染対策は今と変わりませんので、病院での患者対応は今よりも難しくなる面も想定されます。

年度末を迎え一年を振り返ってみると、今年度は診療放射線技師の業務拡大に伴う告示研修が大きな出来事だったと感じます。県内各地区にて行われ、多くの会員の皆さまも受講されたかと思えます。今後は各施設においては新たに拡大された業務、核医学検査のための静脈路の確保、造影のための静脈路確保、動脈路にインジェクターを接続する行為、下部消化管検査のためのカテーテル挿入、上部消化管検査のカテーテルからの造影剤注入・終了後のカテーテルの抜去、などが実際に行われていく事でしょう。とりわけ侵襲度と難易度の高い行為である静脈路の確保なども施設によっては求められていく事でしょう。静脈路確保を出来るようにするための研修をどのように構築して行くかが今後の大きな課題となるような気がします。そして現場では、業務が増えればマンパワーが不足します。現員のままで業務だけが增える事の無いよう人員増を求め、体制を整えた上でこの拡大された業務を実施していきたいところです。

福島県立医科大学 保健科学部診療放射線科学科だより

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 久保 均

皆さま、こんにちは。年が明けたと思ったら、あっという間に年度末ですね。どこの組織でも同じではありますが、大学のような教育機関では年度替わりの時期は最も忙しいです。学年末の成績評価、進級判定、新学年の準備、そして新入生の受入れ準備など、短期間の間に行わなければならないことがたくさんあります。でも、各教員がそれぞれの役割をしっかりと果たしていますので、順調に新年度の準備が進んでいます。4月からは3学年が揃いますので、また一段と賑やかになると思います。

さて、2月には一般選抜入試が行われます。そのデータを見て見ましょう。診療放射線科学科の募集人員は15名で、それ以外の3学科は24名です。診療放射線科学科の倍率は5.7倍となり、昨年度の2.0倍から大きく倍率をあげました。理学療法学科は1.6倍（前年度2.2倍）、作業療法学科は2.5倍（同2.0倍）、臨床検査学科は6.2倍（同2.0倍）となり、理学療法学科を除いて倍率が大きく上がりました。また、診療放射線科学科と臨床検査学科は4.0倍を超えましたので、第一段階選抜（いわゆる足切り）を実施しました。試験は2月25日、26日の2日間の実施です。診療放射線技師になるためにここ福島で学ぶ決意をもった受験生さんに合格していただきたいですね。

一般選抜入試が終わると、3月になります。3月になると、本稿をご覧の皆様全てが忘れることができない3月11日を迎えることになります。本学に入学してきた学生にとっても、この3月11日は特別です。その気持ちを表すために、1年生と2年生の有志で3.11福島追悼復興祈念行事「キャンドルナイト」に参加することとなりました。合わせれば30名以上の診療放射線科学科の学生が、当日の夜に灯すキャンドルの作成や、パネル展示をするための掲示物を作成しています。この様子の写真を、いくつかご覧いただきます。

会場である「まちなか広場」の他に、保健科学部独自で1階ロビーでもキャンドルを灯す計画をしています。本稿が皆様のお手元に届くときには既に終了していると思いますが、もし当日ご覧になられたら、学生たちはこのようにがんばって準備していたんだな、と思っていただけると嬉しいです。



ところで、今まで新医療系学部設置準備室の時代よりこのように保健科学部についてご紹介させていただく機会をいただき寄稿をさせていただいておりましたが、私はこの3月末をもちまして学科長を退任することといたしましたので、私の寄稿としては今回は最後となります。今まで、長きにわたってご覧いただき、

そしてご指導ご鞭撻を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。今後は新学科長に引き継いで参りますので、引き続きご期待ください。

ありがとうございました。

～ 県会長 + JART地域理事 「オンレコ」 ～

1 「第5回東北会長及び教育委員の合同会議」

1月16日

TCRTでの学術奨励賞について新潟県会員も含める事にしました。JART企画（ソリューション）については次回にどれを採用するか検討します。

2 「JART医療画像情報管理士分科会」

1月23日

来年度のJART学術大会でもセキュリティ対策をテーマに企画をします。

3 「県第4回執行委員会及び第4回理事会」

2月17日

来年度事業計画及び予算案の決議を行いました。また来年度から郡山市の税理士との契約を行いました。

4 「第6回東北会長及び教育委員の合同会議」

2月20日

TCRT2023のJART企画について議論を行いました。また、業務改善検討委員会でアンケート調査を実施しますので県内会員にもご協力をお願いいたします。

5 「JART第6回理事会」

2月25日

告示研修での医師派遣中止を決めました。今後は医師に変わりファシリテーターが教える事になります。今までは生涯教育担当者も医師とのやり取りが煩雑でしたので楽になると思います。

研 修 会 報 告

「放射線機器管理地域研修会」を受講して

竹田綜合病院 鈴木 雅博

令和5年2月11日(土)13時より、前日の雪の影響がある中、郡山商工会議所で放射線機器管理地域研修会を開催することができました。

研修の内容としては、「医療機器管理における法令と更新の手続き」「X線撮影装置における機器管理と実践」「CT装置における機器管理と実践」「造影剤自動注入装置における機器管理と実践」「核医学装置における装置管理と実践」5コマ（各60分）

の5時間の講義となります。講義の最後には、質疑応答・ディスカッションがあり、各施設で抱えている問題などを共有することもでき、半日の研修でしたが大変参考になりました。

放射線関連機器をはじめとした医療機器は、我々診療放射線技師には必要不可欠なものであり、機器管理の重要性および各モダリティにおける安全性確保・性能維持・予防安全の観点から、日常点検や定期点検、さらに安全管理体制の構築などの安全管理を実践することで、安全・安心な医療の提供に繋がってきます。

今回の研修では、実際の放射線機器管理の実践方法や注意点など自施設の機器管理業務の見直しとして持ち帰るものが多くあり、大変有意義な研

修会でした。

最後に、講師の先生をはじめ、開催に向けて準備して頂いたスタッフに感謝申し上げます。



開催報告

「第13回福島救急撮影カンファレンス」開催

竹田総合病院 栗田準一郎

令和5年2月25日(土)14時からWebにて開催し、県内外合わせて269名の方に視聴していただきました。

今回のテーマは「冬に起こりやすい外傷」ということで、冬に関連する症例報告の救急実践塾①、救急撮影技師について紹介した救急実践塾②、そして特別講演というプログラムとなりました。また、今回共催していただいたキヤノンメディカルシステムズ株式会社からは「医療機器メーカーの救急への取り組み」という題で情報提供をしていただきました。

救急実践塾①では竹田総合病院の石川奏氏、猪苗代消防署 磐梯出張所 副出張所長の渡部睦由氏、会津中央病院の大島花月氏の3名の方に発表していただきました。石川氏からは大腿骨骨折、渡部氏、大島氏はスキー・ボード外傷の搬送と受け入れ後の診療について、実際の症例を提示しながら分かりやすくお話していただきました。また、救急実践塾②では救急撮影技師についての紹介と試験問



題について紹介させていただきました。

特別講演では会津中央病院 救命救急センター 山村英治先生より、「会津の救急医療」というタイトルで講演していただきました。救急診療の基礎的な知識や、会津地方という広い範囲で迅速に対応するためのドクターカーの運用方法など大変勉強

強になるお話をしていただきました。

開始後通信トラブルがあり、視聴されていた方にはご迷惑をお掛けしてしまいましたが、最後までご視聴してくださりありがとうございました。今後とも福島救急撮影カンファレンスをどうぞよろしく願いいたします。

地 区 だ よ り

県 南 地 区

「令和4年度 県南地区新年勉強会」開催

令和5年1月28日(土)に開催されました。依然として新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況であることを考慮し、Webexによるオンライン形式にて行われました。

勉強会は、放射線線量管理の話題を中心に3つのセッションにて行われました。1つ目は、メーカー話題提供として『クラウド型線量管理システムMINCADIでできること』と題し、株式会社A-Lineの北中康友様に講演頂きました。クラウド型であるメリットが高く、導入の検討をすべきシステムの一つと感じました。2つ目は、各施設における線量管理状況報告として、都路診療所の菅野修一様、坪井病院の菅家和也様、白河厚生総合病院の石森光一様の3施設から報告を頂きました。各々の施設が可能な管理方法で行っていることが分かりました。3つ目は、特別講演として『医療法改正に伴う医療放射線安全管理について（行政機関の立場から）』と題し、宮城県保健福祉部の小野寺保様に講演を頂きました。宮城県における監

査の実態を知ることができ、地区によって確認方法が違うことを考慮しても今後の対策には非常に有用なお話でした。少なくとも地域ごとに保健所とも情報を共有し、よりよい管理が行えるように協力していくことも必要であると感じました。

今後とも実務に即した話題が提供されるような会を進めていただければと思いました。

(鍵谷)

浜 通 地 区

「第36回いわき地区画像研究会勉強会」開催

令和5年3月2日(木)にWebにて開催され、103名の登録者数がありました。

今回は、社会医療法人財団石心会川崎幸病院放射線科副主任 石田和史先生より、『心臓CT ABC撮影に必要な知識は?』と題して、講演して頂きました。内容的には難しいと感じましたが、心臓CTの重要性や今後の救急患者への対応も考えていかなければならないなどの難しい課題が見つかりました。

(折笠)

会員からの投稿

様々な疑問 その2

県南地区会員 佐藤 政春

かつての紙オーダー時代において、撮影方向を

「腰椎2R」とか「腰椎4R」などとRを用いて表すことが多かったと記憶していますが、皆さんはこの「R」は何の意味(略)だと思っていました?この疑問に明確に答えてくれた先輩技師、医師はいませんでした。放射線技師になりたての頃、自分なりに導き出した答えは「ドイツ語の方向を意味す

るRichtungの略：R」でした。かつて医学用語はドイツ語が一般的だったこともあり、ドイツ語解釈は自分としては納得でした。

最近「Yahoo知恵袋」で検索したところ、ベストアンサーの方、また他の方も同じ解釈でした。しかしながら今でも明確な答えは不明です。

ちなみに【様々な疑問 その1】は以前に掲載した「X線管球か X線管か」でした。

第157号：平成29年3月27日発行に掲載

X線管球かX線管か

会報、雑誌等でX線管がX線管球と書かれているのを時に目にしますが今後、抄録はどちらの表記が良いのかどちらでも良いのか学術委員会、編集委員会にお願いするとして以下の資料を参考にして下さい。医療法、医発188号、JIS Z4000～放射線関連JIS、専門書はX線管と表記、日本放射線技術学会は過去に論文用語としてX線管が定義されています。

お知らせ

会 告

定款第14条に基づき下記の定時総会を開催いたします。

記

第12回（令和5年度）公益社団法人福島県診療放射線技師会
定時総会

書面表決書提出締切：令和5年5月25日（木）必着

総会日時：令和5年5月27日（土）午後2時

新型コロナウイルス感染拡大の収束が未だ見えない中、会員皆様の安全確保及び感染拡大防止の観点から、昨年同様、書面表決での定時総会とさせていただきます。

つきましては、別紙の総会資料をお読みの上、お手数ですが令和5年5月24日（水）必着で、書面表決書をご提出ください。

定時総会へのご意見等がありましたら、各協議会や理事までお知らせください。直接、県HPへメールしていただいても構いません。なお、一般公開講演や各表彰も中止といたします。会員皆様のご理解を宜しく願いたします。

結果については、各理事や県HP、福放技ニュースにてお知らせいたします。ご理解とご協力の程お願い申し上げます。

以上

告 示

公益社団法人福島県診療放射線技師会定款第23条及び役員選出規程に基づき、令和5・6年度役員の立候補受付及び選挙を下記により行う。

記

1. 役員の定数
理事 14名以上17名以内（会長・副会長候補者を含む）
監事 2名（内 1名は会員以外）
2. 立候補、推薦候補届出の受付開始日及び締切日
令和5年4月1日より令和5年5月7日正午まで
3. 届出の方法
立候補届・推薦候補届を郵送またはメールにて選挙管理委員会に提出する。但し、メールにて提出の場合は、総会当日までに原本を提出することとする。
4. 届出先
〒975-0033 南相馬市原町区高見町二丁目54-6
南相馬市立総合病院 診療放射線部
渡部 晃永 宛
E-mail: election2023@fart.jp
5. 投票日
令和5年5月27日 第12回（令和5年度）定時総会

以上告示します。

令和5年3月1日

公益社団法人福島県診療放射線技師会選挙管理委員会
委員長 渡部 晃永

編集後記

年が明けたと思ったら、早いものでもう年度末の3月です。いよいよ春の到来ですね。ご自身の異動やご家族の卒業など、新生活の準備が始まった方も多いかと思います。

今年もスポーツイベントは目白押しです。発行日には、WBCで盛り上がり、侍ジャパンはアメリカでの決戦に向かったのでしょうか？（期待！）その他にも、7月には女子サッカーW杯、8月にはバスケットW杯、9月にはラグビーW杯が開催されます。まだまだwithコロナの日常業務が続くと思いますが、職場の皆さんと一緒に応援しましょう。

（風間）